

# 出稼農民像の変容

## 季節労働者失業保険金問題を手がかりに

Transformation of Migrant Farmers' Image :  
Seasonal Workers' Unemployment Insurance Problem

### 加瀬和俊

KASE Kazutoshi

#### ①問題の所在

#### ②高度成長期における雇用労働者増加と農家出身者の位置

#### ③復興期における出稼者失業保険金受給問題

#### ④高度成長期における問題の展開と対処策

#### ⑤職安と職安労働者の動向

#### ⑥地方自治体の対応

#### ⑦農民達の意識と行動様式

おわりに

#### 【論文要旨】

本稿は高度成長期における出稼農民の実態と彼等に対する国民の意識の変化について検討する。高度経済成長期には学歴の向上とあいまって近代的な事務・技術職が増加したが、同時に建設業・下請工業・零細商業等の単純労務職・不安定雇用も増加した。後者の底辺的労働市場の労働者は、すでに農業従事者となっていた者が季節的に労働力需要地に移動して、出稼労働者として働く形態が典型的であった。出稼農民に対する人々の見方は当初は同情的であった。農業所得が少なく生活が困難であるために、一年の半分前後の期間を家族と離れて工事現場に寝泊まりして労働しなければならぬという彼等の厳しい状況が、人々の同情を誘ったからである。しかし多くの出稼農民が毎年出稼を終えて帰郷するたびに繰り返し失業保険金を受給しているという事実が広く知られるようになると、こうした同情が薄れ、次第に批判的見方が強まった。彼等が掛金よりもずっと多額の保険金を受け、その結果として失業保険財政が悪化し、一般加入者の掛金が高くなっているという労働省の説明を受けてマスコミがこれを広く報道したためである。農民に対する批判は、米価が政治的理由で不当に高められ食糧会計が赤字を抱えていること、農民が税金をごまかしていること等の批判も加わって、強められた。そうした世論の変容と同時に、農村においても就業機会が増加して失業保険金受給の条件が弱まってくるという変化があり、失業保険の受給を既得権と主張していた出稼組合の立場は後退せざるをえなかったし、出稼農民の保険金受給を支援してきた地元市町村、職業安定所の対応も彼等に対して厳しいものになっていかに変わっていかざるをえなかったのである。

【キーワード】 出稼農民、季節労働者、失業保険、職業安定所、労働者